

第364回 昭和の森自然観察会

水辺に生える植物の秘密を探ろう

玉川弘幸（千葉市）

日 時：2022年6月12日（日）10～12時、天候：曇り

参加者：4名（大人2名、子ども2名）、指導員5名 事務所1名 計10名

担当指導員：平田（稚）・玉川

観察会の天気が心配されていたが、当日は曇天ながら雨は落ちていなかった。観察会の準備を済ませて東屋で待機した。参加者は大幅に減り、二家族4名でしたが、2グループ編成とした。

挨拶の後、これから観察していく「水辺の植物」の資料を配布した。水の深さによる水草の棲み分けから、①ショウブ、ヨシ、ガマ、マコモなど、水の近くで暮らす抽水植物。②スイレン、ハス、ヒシなどの根は水底に張り、花や葉を水上に浮かべる浮葉植物。③ウキクサ、イチョウウキゴケ、ホテイアオイなど、根が水底に届かず、葉を水面に浮かべている浮遊植物など、今日観察する植物の説明をした。

スタートして直ぐにキブシの木の下でオトシブミを発見。ここでは、オトシブミのレクチャーを受ける。ウスモンオトシブミの成虫の姿も見られた。階段を下り、池の奥の湿地帯生えるショウブから観察開始。先ず、葉のように見える花茎の先に黄緑色の棒のような花、肉穗花序から観ていく。ルーペで見ると、小さな花が多数集まっている事がわかる。葉をナイフで切ると、強い芳香があり、端午の節句に菖蒲湯として使われる。続いて、近くに直立しているヨシに目を移す。茎の断面は、中空で外皮の内側はダンボールを張り付けたような構造。配布してある段ボール片と比較してみる。東京2020オリンピックの選手村のベッドはダンボール製だったとか。ヨシは編んで夏に日除けとして利用される。林縁に咲くホタルブクロを観ながら、ガマ、マコモの観察地点へと向う。ガマの葉は線形で、触ると肉厚。葉を横にカットした断面は三日月形。縦断面は線引きした、阿弥陀ぐじのように見える。大型船舶の隔壁や航空機の翼などの強度補強に使われているリブ構造や、ハニカム構造は、こういった植物からの応用している。秋、マコモダケの花芽は食用にも。茎や葉でムシロを編んだりする。下夕田池では岸辺をスイレンが埋め尽くしている。ここでは、スイレンとハスの葉・花・茎の違いを確認した。テーブルの所では数々の実験にトライ。ウキクサやイチョウウキゴケの葉状体をナイフで切って気室や根棒などを観察した。ホテイアオイの葉柄の膨らんだ部分を割ると、スポンジ状になっていて、指でつぶすと空気の粒が出てきた。ハスの葉に水を垂らすと、くっ付かずにコロコロと転がるのがわかる。この、ロータス効果はヨーグルトの蓋や家庭用品のフライパン、凸凹付きのしゃもじなどにも応用されている。結構、自然界から学ぶことは沢山あるようだ。子ども達は、ハスの茎を使ってシャボン玉を楽しんでいた。ちょっと駆け足の観察会になったが、無事終了した。

参加者感想 本では載っていない事がわかった。水辺の植物の凄さがわかった。



形がソーセージに似ていて 背が高いね！



ハスの茎を使って シャボン玉遊び 大空に飛んでけー！